

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援はるかの実			
○保護者評価実施期間	R7年1月15日 ～ R7年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R7年1月15日 ～ R7年1月22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	きめ細やかな子どもへの関わり	おおむね子ども一人につき、一人のスタッフが対応し、活動によっては個別療育を行ったり、1対1で細かく関わり、行動変容を促している。	子どもの行動については職員間でしっかり分析したり、外部スタッフの助言もいただきながら引き続き対応していく。
2	活動内容が固定しないよう工夫している	子どもたちの課題を踏まえ、リーダーを中心に日々の支援内容を検討している。	様々な情報を得ながら、子どもたちが楽しく活動できるための取り組みを今後を考えていく。
3	ご家族へのサポート	定期的な面談のほか、相談などあればすぐに対応し、面談日を設ける。	本児及び家族の気持ちに寄り添い、安心して相談してもらえるような関係構築に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流が少ない	親子療育時、交流会を設けているが、回数が少なく、参加ができなかった方たちは交流機会を持つことができなかった。	来年度に向けて、回数を増やしたり、都合の合わない方たちには別日を設けたりを検討していく。
2	情報発信力不足	マニュアルや非常時の対応方法等、事業所の情報について説明が不十分であったのではないかと考える。	契約時、モニタリング時等、定期的に情報伝達し、情報共有や不明な点がないかをしっかり確認していく。
3	事業所内のスペースが限られている	できる範囲で体を動かす活動を取り入れているが、屋内が広くはないため、定員いっぱいになると全員で思いっきり走り回ったりは難しい。	物理的に改善は難しいが、必要なものはその都度出し入れをしたり、屋外での活動も充実させながら対応していく。